東医大誌　**81**(3)：277-278, 2023

Pivotal Meeting Report

# 第 31 回日本医学会総会
# (The 31st General Assembly of The Japan Medical Congress)

## テーマ：ビックデータが拓く未来の医学と医療
## ～豊かな人生 100 年時代を求めて～
## ―日本医学会総会 2023 東京に参加して：
## 4 年に 1 度、医学の祭典―

循環器内科学　主任教授　　里　見　和　浩

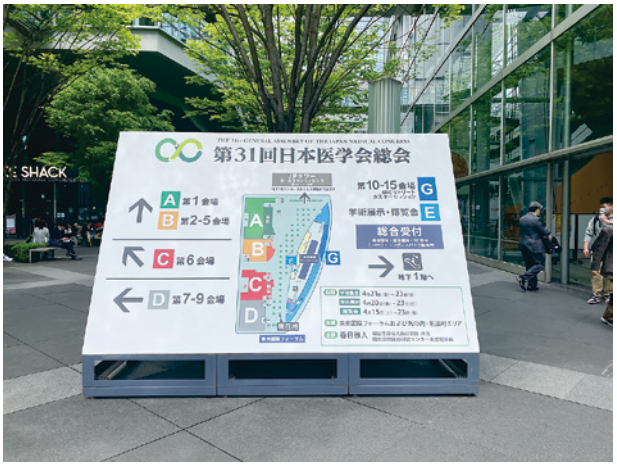
2023 年 4 月 21 日から 23 日まで、東京フォーラムにおいて、日本最大の医学系学会である日本医学会総会が開催された。明治 35 年以降、4 年に 1 回開催されており、今回もおよそ 3 万人参加する予定となっている。開会式は天皇皇后両陛下のご臨席のもと、岸田首相も出席して行われた。

実は私自身、今回初めて本学会に参加した。様々な広い分野にわたる学会であり、学術面はもとより日本の医療や医学における重要な問題を網羅的に理解することができ、非常に勉強になる学会であった。

また市民向けのイベント「日本医学会総会 2023 東京博覧会」は、市民公開講座の他、子供向けの医学系イベントが開催されており、とても魅力的な内容だった。

本年 4 月から科長に赴任した自分にとって、喫緊の課題は 2024 年からの「医師の働き方改革」である。大会 2 日目に会長特別企画として、「2024 年の医師の働き方改革元年を翌年に控えて―課題と展望」、大会 3 日目に「医療人の働き方に関わる諸課題とその対策」など複数のプログラムが行われた。緊急対応も多く多忙を極める循環器内科診療と、大学の使命である研究、教育を、いかに業務量をコントロールして行っていくかは、私だけの悩みだけではなく、多くの医療機関にとって重要な課題であると認識した。

令和 4 年の文科省「大学病院における医師の働き方改革に関する調査研究」によれば、まずは当面の目標である年間 1,860 時間の勤務時間を超えるのは、大学病院勤務医の数 % とされる。来年 4 月の目標をクリアするのはそれほど困難ではないと思われる。もちろん年 1,860 時間の勤務時間はすでに過労




死レベルであり、2035 年まで段階的に年 960 時間まで漸減していく必要がある。ただし、この勤務時間には研究や教育といった時間がほとんど含まれていない。大学病院で勤務する助教の 15% が週あたりの研究時間が 0 であると報告された。アンケート調査では 90% 近い大学病院医師が労働時間短縮により、教育や研究に割く時間が減り質の低下が生じると答えている。

まずは「自分のプライベートを犠牲にして長時間働くことをよしとする」意識をまずは変えることが必要である。一方、若い世代の医師は、初期研修のころから、労働時間を管理する意識がすでにあり、今後自然に医師の労働時間は減っていくのではないかと思う。時間外や休日に主治医が対応するのが当たり前という患者側の意識改革を同時に進めて欲しい。「医師の働き方改革」が、将来の医療者、患者すべてために、良い医療を提供できるよう進めていくのは、解けないパズルを考えるように思っていたが、今回の学会で少し光明を見たように思う。